

調査・研修等計画届出書

令和 5年 9月26日

瀬戸市議会議長 様

議員名 山内 精一郎 

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 5年10月11日から10月13日まで（2泊3日）	
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察	
会場名（会場所在地）	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要	依頼先（名称）
同行者名	富田 宗一・小澤 勝・西本 潤・三木 雪実・宮菫 伸二・ 高島 淳・朝井 賢次・颯田 季央・黒柳 知世	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 5年11月24日

瀬戸市議会議長 様

議員名 山内 精一郎

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和5年10月11日から10月13日まで（2泊3日）
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察
会場名（会場所在地）	岩手県洋野町視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野町視察 ・東日本大震災以後の復旧・復興の取組に関して 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業との連携と実績効果、アートを通じてのまちづくり、またイベント等による市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災以後の復旧・復興の取組に関して
同行者名	富田 宗一・小澤 勝・西本 潤・三木 雪実・ 宮園 伸二・高島 淳・朝井 賢次・颯田 季央・ 黒柳 知世

岩手県洋野町視察について

東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて

2011年3月11日（金）午後2時46分

東日本大震災 観測史上最大の地震発生 マグニチュード 9.0

洋野町は、震度4を観測する。

地震と同時に、町内全域が停電

午後3時30分頃 大津波（第1波）が襲来

その後、繰り返し押し寄せる大津波に本町沿岸部は甚大な被害を受ける。

・当時の課題 ① 「通信体制」

固定電話、携帯電話は不通 災害時優先電話は、通話可能。

衛星携帯電話も無かった為、県との通信手段も一時的に途絶える。

【改善策】

消防団：防災無線双方向子局を整備

庁舎：衛星携帯電話を配備

住民：メール・LINE配信（エリアメール）

・当時の課題 ② 「停電・燃料対策」

地震発生直後から町内全域が停電

停電は、地震発生翌日の23時過ぎに順次復旧

各避難所には、消防車両を使って燃料を搬送 → 停電に伴い物流も

ストップしたため、公用車やガレキ撤去用の車両の燃料確保も混乱発生。

【改善策】

各避難所用の非常用電源として、発電機、投光器、反射式ストーブ、ガソリン携行管を消防団に配備。

災害時は、消防団が避難所に搬送する。

電気自動車を所有する自動車会社と災害協定を締結する。

・当時の課題 ③ 「食料・災害物資の備蓄」

町の食料備蓄は「0」であった。

避難所での炊き出し用食材は、民家や販売店からの食材を確保して対応。

災害用備蓄品は、毛布が500枚程度のみであった。

【改善策】

非常食料を備蓄

簡易トイレ、マット、ライト等の整備

防災とは

防災の基本は、自助、共助、公助が重要な3要素となる。

自分の身は自分で守る

自助（7）共助（2）公助（1）



岩手県野田村視察について

野田村復興記録 安心・安全で活力あるむらづくりに向けて

野田村は、岩手県沿岸北部の太平洋に面した小さな村です。

・震災の爪痕

2011年3月11日(金)午後2時46分

岩手県野田村は、東北地方太平洋沖地震により震度5弱を記録し、最大約18mの津波が襲来。津波の最大遡上到達高は、37.8mを記録。

住屋の被害は合計515棟。村内の約3分の1に及び、37人の尊い生命と貴重な財産、そして歴史と思い出までもが奪われる甚大な被害が生じる。

・震災への対応

震災当日の災害対策本部、村職員・消防団等の行動

懸命な検索活動の結果、3月28日には行方不明者の検索を終了できた。

・全国からの応援、支援

震災直後から、皆様から差し伸べられた、たくさんのぬくもりに支えられ、復興・復旧を進めることができました。いつまでも、支えてくれた皆様

への感謝を忘れません。

- ・復興に向けて

平成23年11月「野田村東日本大震災津波復興計画」の策定

基本理念

東日本大震災から本村を迅速に蘇らせ、安全・安心なむらを創造するため、基本理念を「安全・安心で活力あるむらづくり」と定め、全ての村民の力を集結し、結いと協働による復旧・復興・発展に取り組めます。

- ・思い描いた村の姿

平成25年4月「野田村復興むらづくり計画」の策定

野田村らしい魅力ある暮らし

豊かな自然のもとに、人々がふれあい、ゆとりとむくもりのある暮らし

- ・津波防災の斬新

多重防災型のまちづくりで、将来にわたって災害に強いまちへ

野田地区は、3つの「堤防」でまちを守る

中沢地区は、防潮堤の嵩上げ

玉川地区は、水門の嵩上げ

下安家地区は県道と宅地の嵩上げ、堤防の新設

- ・住まいの再建

防災集団移転促進事業による高台団地の整備（城内・米田・南浜地区）

漁業集落防災機能強化事業による宅地の嵩上げと高台造成工事（下安家）

被災市街地復興土地区画整理事業（城内地区）

村の町並みや生活に馴染む災害公営住宅の建設

- ・生活と暮らしの再建

平成24年3月 地域の足としてみんなから愛される三陸鉄道の運転再開

平成27年4月 城内地区高台団地は「新町」として行政区の誕生

- ・生業と賑わいの再生

産業の再生

自営定置網の網起こし 養殖ホタテの稚貝分散 のだ塩工房の再生 等

新たな産業の取組

涼海の丘ワイナリーの開所 野田バイオマス発電所 荒海団の結成 等

新たな賑わいの取組

「LIGHT UP NIPPON」 NODAまんぷくマルシェ 野田村プチよ市の開催

- ・都市公園の整備・十府ヶ浦の再生

津波から市街地を守るポケット状の都市公園の整備

歩いて自然と歴史文化を感じる「みちのく潮風トレイル」の整備

上記10項目の推進により、野田村は復興を遂げています。

最後に、感謝を胸に、笑顔あふれる野田村へ



八戸市美術館視察について

八戸市美術館

- ・人とまちを育む美術館を目指して
八戸市美術館は、2021年11月3日にこれまでにない新しいタイプの美術館として、生まれ変わってオープンしました。
新美術館の整備背景は、新しい美術館整備を求める市民の声の高まり。
アートのみまちづくりの中核施設として、美術館機能拡充する。
旧美術館の施設面での課題解決。(建物老朽化・耐震性等)
- ・八戸市美術館のビジョン
種子を撒き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館
～出会いと学びのアートファーム～
「八戸の美」に迫る 「八戸の人」を育む 「八戸のみまち」に波及させる
3つの機能を総てが融合した八戸固有の活動 とする。
- ・八戸市美術館のイメージ
つくられた時代によって、美術館は変化している。
これまでの美術館「みる」美術館 → 八戸市美術館「つかう」美術館

- ・八戸市美術館の特徴

「もの」を展示する展示室だけでなく、「ひと」が活動し「こと」や「もの」を生み出す「展示室」＝「ジャイアントルーム」を持つ美術館

「ひと」の活動も作品として展示される美術館

ジャイアントルームとは、誰でも使えるフリースペース

美術館の入館は無料であり、企画展を見る場合のみ有料。

- ・八戸市美術館の主な取組について

小・中・高校の教員、美術館の学芸員、専門家が一体となって

「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、学校教育だけでは実現できない取組を行っている。



青森県おいらせ町視察について

- ・おいらせ町の被害概要

2011年3月11日（金）午後2時46分

青森県おいらせ町は、東北地方太平洋沖地震により震度5強を記録。推定8mの大津波が襲来。町民の生活・経済基盤に大きなダメージを与え、沿岸部を中心に大きな爪痕を残しました。

- ・おいらせ町震災復興計画

おいらせ町は平成23年8月17日特定被災地方公共団体に指定され、復興交付金による対応できることになり、「おいらせ町震災復興計画」を立案し、これを指針とした復興・再生を進める。

- ・復興事業 1 おいらせ町 津波監視カメラ

これまで地震発生時には、町職員や消防団員が沿岸部で直接海面を監視していたが、今回整備した「津波監視カメラ」により、日中は勿論のこと、深夜においても安全な内陸部から津波を監視し、適切なタイミングで、避難勧告・指示の発令が可能となる。

- ・避難事業 2 避難階段の設置

高台に迅速に避難できる階段です。夜間は、ソーラー電池により、手すりのライトが点滅する。避難階段は、4ヶ所設置され、緊急避難場所となる。

・復興事業 3 おいらせ町 明神山防災タワー

避難スペースの床面の高さは、想定浸水深+4メートルの余裕高を確保し、タワー下層部分は、壁のない吹き抜け構造で波力を受け流します。

・復興事業 4 百石海岸津波・高潮危機管理対策緊急事業

百石海岸は、太平洋に面した砂浜海岸である。東北地方太平洋沖地震の津波が既成堤防を越流した為、堤防高T. P. +7.0メートルに堤防嵩上げを行い背後の人家等被害を防止する。

・復興事業 5 津波避難誘導標識等の整備

津波発生時に、地域住民及び観光客などの来訪者が迅速かつ適正に避難行動が取れるよう、誘導標識や照明灯を設置する。

誘導標識：津波避難路上に約60ヶ所設置する。

避難場所標識：避難目標地点標識照明灯を約9ヶ所設置する。



調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

岩手県洋野町視察について

Q. 震災では死亡・行方不明者がゼロだったと聞くが、何が功を奏したのか？

A. 下記3点の要因が考えられる。

一つ目は、「住民の津波避難に対する意識の高さ」です。町民の皆が、「地震が来たら高台に逃げる」という心構えをもっている点。

二つ目は、津波発生時の消防団の行動が徹底されていたこと。

「一部一水門閉鎖」の徹底による、海岸付近に留まる時間の短縮。

三つ目は、防潮堤の整備。震災の2年前に12メートルの防潮堤が整備され、防潮堤による各地区への浸水が免れた。

Q. 消防団員の活躍について教えてください。

A. 消防団について、訓練を含めた取組を3点紹介します。

一つ目は、団員の士気を保つ取組です。可能な限り、町独自の操法大会を実施するなど、技術向上と士気を保つための取組を実施。

二つ目は、水門管理の委託です。130ヶ所の海岸水門管理を消防団に委託しており、実際に12分後に閉鎖を完了している。

三つ目は、防災訓練での取組み。防災訓練は、住民のほか、消防団、消防職員も参加。同時に、道路封鎖の訓練も行われる。

Q. 在日外国人や訪日外国人への情報伝達について教えてください。

A. 外国人に向けた情報伝達については、津波避難に関連する看板は、日本語と英語表記。メールとLINEによる災害情報については、配信システムのオプションとして、多言語配信が設定。

八戸市美術館視察について

Q. 美術館建設について、苦労したことは？

A. 費用面も然ることながら、新美術館は、新美術館の敷地や隣接する市有地のほか、青森銀行八戸支店及び交番の敷地を合わせた区域内で、銀行の新店舗整備や交番移設との協調開発を行い、ロータリー周辺との一体的な景観形成を図ったこと。

Q. ジャイアントルームとは何ですか？

A. エントランスとしての役割のみならず、人々が自由に集い、学び、活動する場としての役割も担う巨大な空間。

Q. 今後の展示予定について

A. 令和5年11月から「ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900年」令和6年1月から「Fumiyart 2024」藤井フミヤ展を開催予定です。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回の視察所感

今回、青森県・岩手県に東日本大震災からの復旧・復興をメインに視察をしましたが、津波の犠牲者数は「伝承」が影響していることが理解できました。東北地方は、過去昭和三陸津波等、何度も災害を経験してきました。そして、今回の東日本大震災に於いて、岩手県洋野町八木地区では最大13メートルの津波に襲われましたが、犠牲者はひとりもでませんでした。この地区では、90年前に起きた「昭和三陸津波」で「およそ80人が犠牲になり、住民たちはその記憶を代々に伝えてきました。

「地震があったら津波にお用心」この言葉は、地域の石碑に刻まれている言葉です。そして、この言葉の伝承の場となっているのが、毎年かさかさ行ってきた慰霊祭です。子供たちは小さいうちから、地震が起これば、津波が来るからすぐに逃げる。と、教えられる。

「誰に言われなくても、子ども達は自ら避難していた。これからも教訓を代々語り継いで、津波の犠牲者がいないようにしなくてはいけない。」
そして、地域に石碑が残され、追悼の行事が続けられていけば、親子や住民の間で「あのときああだったね。こういう事を忘れないようにしようね」という対話が生まれて、おのずと地域の中に記憶が定着していく。どんな立派な物を作ったとしても、災害伝承の要は“人”だ。という言葉が、今回の視察で一番心に残った言葉でした。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	名古屋飛行場	飛行機	片道	青森空港	693	km	37,300	円	円
年						km		円	円
						km		円	円
10						km		円	円
						km		円	円
11						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

50,300 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5						km		円	円
年						km		円	円
						km		円	円
10						km		円	円
						km		円	円
12						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

小計 13,000 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	青森空港	飛行機	片道	名古屋飛行場	693	km	37,300	円	円
年						km		円	円
						km		円	円
10						km		円	円
						km		円	円
13						km		円	円
						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									
八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。									

バック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計 (宿泊費+交通費-割引代)
78,350 円